

車両整備のための工作機械群パート5 旋盤

今回は過去にも何度か触れたことのある旋盤について触れます。旋盤は、工作機械の中でも一番基本的な機械といわれるもので、今まで紹介してきた機械に比べて様々な加工をすることができます。そんな旋盤のことを、少しでも知ってもらえると嬉しいです。



大型旋盤

製造元：詳細不明。
稼働時期：1974年以降か？
駆動方式：独立電源で稼働。
元々はベルト駆動。

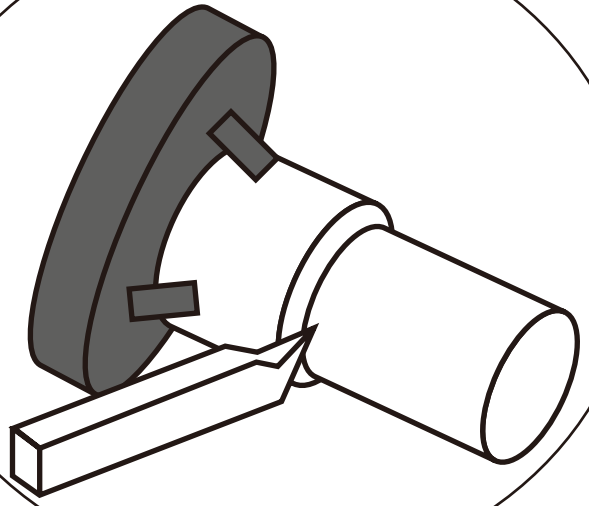


普通旋盤

製造元：高橋鐵工所
(東京神田・埼玉県川口市)
稼働時期：くりでん開業当初(1920年頃)
駆動方式：ベルト駆動



加工のイメージ図



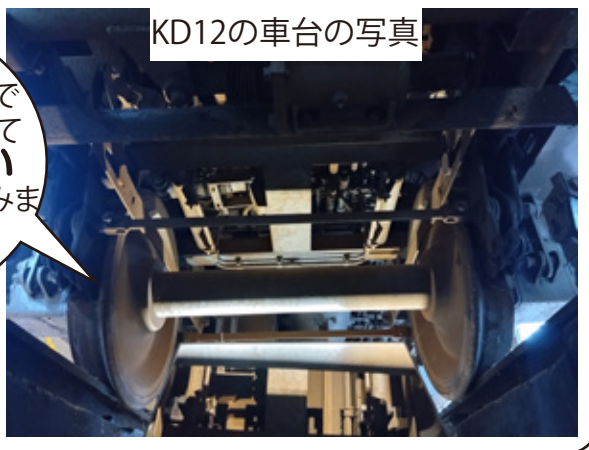
旋盤とは？

旋盤は、固定させた材料を回転させ、そこに刃を入れて旋削加工する機械です。もっとも使われる一番基本的な工作機械とも言われ、今でも様々な工場で使用されています。刃の当て方によって様々な形に加工することができます。

くりでんでは、どんな作業をした？

くりでんでは、車両の中の**車台**という部品のメンテナンスをしたり、**工場内で使う道具**を作ったりしていたそうです。その中でも旋盤は、丸いものを作ったり、らせん状に溝を入れたりすることが得意な機械です。

KD12の車台の写真



この中で、旋盤でメンテナンスしていただろう**丸い部品**を探してみてください！

いつから使われとったと？

“くりでん”で長く使われていたのは、右側の普通旋盤です。これは“くりでん”が創業した時、つまり1920年ごろから使われていたと伝えられています。もう一方の大型旋盤は、細倉鉾山で使われていたものだったようですが、1970年代あたりで“くりでん”に譲り受けたということです。

次回予告

車両整備のための工作機械群パート6 ボール盤

【くりでんミュージアムへの問い合わせ】
TEL:0228-24-7961
FAX:0228-24-7962
メールアドレス:info@kuridenpark.com